

## DX基盤で事業支援

WAら3社「守谷モデル」に導入

4月から事業を開始した守谷市の上下水道施設管理等包括業務委託において、受託者のウォータリーエンジニアリング、中央設計技術研究所、オリエンタルコンサルタンツは、共同で開発したソフトウェアを支援

するクラウド型施設管理システムを導入した。「守谷モデル」として注目を集める業務委託は、水道・下水道・農業集落排水施設の運転管理業務に、上下水道関連の各種計画策定などのコンサルタント業務を併せた10年

間にわたる案件で、O&M企業とコンサル企業の連携によって維持管理を起点とするCAFDサイクルの構築を図り、修繕・改築計画の最適化や適切な資産管理の実現を目指す。

この狙いを実現するツールの一つとなるクラウド型施設管理システムは、事業者提案に盛り込んだ「DX基盤整備」のメニューの一つ。台帳の

データと点検・修繕情報を効果的に活用し、施設の効率運用、リスク管理、アセットマネージメントを支援する機能を実装す

る。O&M企業とコンサルタンのノウハウを融合し、現場が使いやすいシステムとなっていること

が大きな特徴。このシステムを活用しながら、施設管理および事業経営全体の高度化・効率化を図る。